

サステナブルツーリズムの推進

【背景】

○高知県は都市圏の観光地と異なりサステナブルな観光素材を多く有している

（例：かつおの一本釣り、日曜市等の街路市、路面電車、廃校水族館、砂浜美術館 など）

○SDGs（持続可能な開発目標）の重要性が世界的に高まるなど、「地域社会の持続的発展を目指す観光」は社会の新たな潮流となりつつあり、本県のサステナブルな観光素材は今後大きな強みとなる

・SDGsという単語の認知度は約7割（2021年7月調査）
 ・クルーズ会社によっては、サステナブルツーリズムの国際認証を取得している地域の陸上ツアーを優先採用
 ・R2年6月に観光庁は「日本版持続可能な観光ガイドライン」を公表
 ・世界の旅行者の68%が「旅行に使ったお金が現地コミュニティに還元されること」を望んでいる

【サステナブルツーリズムを推進することで期待される効果】

○サステナブルツーリズムに対する国内旅行者の意識が今後より高まっていった際に**選ばれる旅行先**となる

○欧米からの旅行者はよりサステナブルツーリズムに対する意識が高く、**訪日外国人からも選ばれる旅行先**となる

○日本みどりのプロジェクトで実施する「みどりの学習旅行」等のSDGsを学ぶ学習旅行の誘致にも寄与する

高知の「強み」を「サステナブル」という切り口で「自分も高知も喜ぶ旅」として発信する

高知が目指すサステナブルツーリズム＝地域の文化や環境を守りつつ、ありのままの日常を体験し味わうことで、訪問客と地域社会がともに恩恵を受ける観光
 ＝「自分も高知も喜ぶ旅」

サステナブルツーリズムに取り組む機運をつくる

- ・市町村、観光事業者、観光協会等を対象としたセミナーを継続して開催
- ・県内メディア（報道関係者）とサステナブルツーリズムに関する情報交換会を開催し、新たな観光戦略として県民にむけた情報発信を促進

「高知＝サステナブル」というイメージをつくる

- ・高知の観光素材がいかにサステナブルであるかを可視化するための冊子を作成
- ・SNSやマスメディア等を通じ、「高知＝サステナブル」というイメージを県外に向け発信

サステナブルツーリズムを意識した観光商品をつくる

- ・サステナブルツーリズムを意識するターゲットに向けたコンテンツの発掘、磨き上げ、セールス、プロモーションを行うことでSDGsに寄与する観光商品造成につなげる
- ・広域観光組織と協議し、R5年度以降も継続して販売できる体制を構築する

令和7年度（大阪関西万博開催）を目指す姿

「高知＝サステナブル」というポジションが確立され、そのことが魅力となり旅先として高知県が選ばれる